健診・検診受け忘れていませんか？



健診（検診）の受け忘れはありませんか？受診を希望する人は、医療機関へ直接予約をお願いします。

検診名	対象者	自己負担金
特定健診	・国保加入者・後期高齢者医療保険加入者	500 円
胃がん検診	40 歳以上	1,200 円
肺がん検診	40 歳以上	500 円
大腸がん検診	40 歳以上	500 円
肝炎ウイルス検査	40 歳以上（今まで受けたことのない方）	400 円
骨粗しょう症検診	40 歳以上の女性	400 円
子宮がん検診	20 歳以上の女性	700 円（体部同時 1,200 円）
乳がん検診	40 歳以上の女性（昨年度未受診者）	600 円

日野町ホームページ
QR コード

医療機関・実施期間など、詳細は町ホームページをご覧ください。

※日野町受診券を紛失された方は再発行しますので、町健康福祉センター（電話 72-1852）までご連絡ください。

◆歯周病検診　（今年度 20 ～ 70 歳の 5 歳刻み年齢になる方のみ）

歯科医院	実施期間	自己負担金
おか歯科医院	令和 9 年 3 月 31 日まで	・歯周病検診 500 円　・口腔がん検診 500 円 （口腔がん検診は 40 歳以上のみ）
その他の歯科医院	令和 8 年 12 月 31 日まで	・歯周病検診 500 円

※対象の方には、7 月上旬に案内文を送付しています。
※歯周病検診を希望される方は、健康福祉センターへ必ずご連絡ください。（電話 72-1852）

日野町しいたん健康ポイント事業申請のお知らせ



健診受診や事業への参加でポイントを貯めた方に、まめなか屋で利用できる商品券を贈呈します。ポイントを貯めて、健康と商品券をゲットしましょう！ 10 月より申請を受け付けています。ポイントが貯まったら申請をお忘れなく！

申請期間：10 月 1 日（木）～ 12 月 28 日（月）

【申請方法】

◆とっとり電子申請サービス（24 時間受付）
https://apply.e-tumo.jp/town-hino-tottoriu/offer/offerList_detail?tempSeq=20109

電子申請サービス
QR コード

◆窓口申請
《申請場所》役場健康福祉課、町公民館　《必要なもの》ポイントカード

◆郵送申請
《送付先》〒 689-4503　日野町根雨 101 番地　日野町役場健康福祉課
《送付するもの》ポイントカード

★一定以上ポイントを貯めた方にまめなか屋で使える商品券を贈呈！
★申請された翌月に商品券をご自宅に郵送します
商品券有効期限：令和 8 年 11 月 1 日（日）～令和 9 年 3 月 15 日（月）

20 ポイント以上：商品券 1,000 円分
30 ポイント以上：商品券 3,000 円分

【問合せ先】町健康福祉センター（電話 72-1852）

日野病院
病院長コラム

第119回

「やせる薬」は本当にいいの？

～体重が減ることと、健康になることは同じではありません～



日野病院 病院長　孝田　雅彦

日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。

糖尿病の治療薬を減量目的で使用することの危険性

２０２６年10月、日本肥満学会と厚生労働省から、いわゆる「やせる薬」の不適切な使い方について注意が呼びかけられました。テレビや新聞でご覧になった方もいらっしゃるかもしれません。

ここでいう「やせる薬」とは、ＧＬＰ－１受容体作動薬などと呼ばれる注射薬や飲み薬のことです。もともとは糖尿病の治療薬として登場し、血糖を下げる力がとても強い薬です。私の患者さんの中にも、これまで血糖がなかなか下がらなかったのに、見違えるほど良くなった方がいらっしゃいます。

ところが最近、「やせたい」という目的でこの薬を自費で手に入れ、使う人が増えています。その結果、吐き気や嘔吐、下痢のほか、急性膵炎（すい臓の強い炎症）や、体の中で脂肪が急に分解されて起こる「ケトーシス」という状態など、重い副作用の例も報告されています。早く効果を出そうと量を増やしたり、決められた間隔を守らずに使ったりすることは、医師や薬剤師のチェックがない中ではとても危険です。

また、特に若い女性では、実際には太っていない、あるいはむしろやせているのに「自分は太っている」と感じている方が少なくないことが知られています。治療が本当に必要かどうかは、まず医師とよく相談して決めることが大切です。

薬による減量と食事・運動による減量の違いとは

実は私も、この薬が出てきたころ、「つらい食事制限や運動をしなくても、薬だけで同じように体重が減るなら、患者さんはずっと楽になるのでは」と考えました。同時に、「薬で減った体重と、食事や運動で減った体重は、体にとって本当に同じなのだろうか」という疑問も浮かびました。当時はこの疑問に答える研究はありませんでしたが、最近になって、両者を比べた研究が発表され始めています。

脂肪肝のある方を対象にした研究では、体重の減り方が同じであれば、脂肪肝の改善の程度も同じでした。血糖の改善は薬の方が優れていましたが、その一方で、筋肉の量は薬で減量した方が多く減っていました。

つまり、体重計の数字が同じでも、体の中身まで同じとは限らないのです。薬には血糖を改善するなどの優れた働きがありますが、運動には筋力や心肺機能を高め、骨を丈夫に保つという、薬だけでは得られない効果があります。

薬と食事・運動は、どちらか一方を選ぶものではありません。薬が本当に必要な方は医師のもとで正しく使い、そのうえで食事と運動を続けることが大切です。

特に高齢の方にとって大切なのは、ただ体重を減らすことではありません。筋肉や筋力、骨、そして栄養状態を保ちながら健康を目指すことが、本当の健康につながります。

気になることがあれば、日野病院の医師にご相談ください。体全体のことを考えながら、あなたに合った方法を一緒に考えていきましょう。

